

平成20年2月7日

総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会
核燃料サイクル安全小委員会

委員 _____ 様

三陸の海を放射能から守る岩手の会

第14回核燃料サイクル安全小委員会会議に係わる要望書

拝啓

日頃、日本のエネルギー政策についてのご検討に敬意を表します。

さて、標記の件につきまして、2月4日付け日本原燃（株）による「再処理施設アクティブ試験第4ステップにおける高レベル廃液ガラス固化設備の試験状況報告」が公開されました。これについて、2月14日（木）に核燃料サイクル安全小委員会で審議されると聞いております。

この報告書を要約すれば「ガラス固化体製造は『白金族元素の影響を考慮し、管理された運転状態で維持されることについては確認できなかった』が、いったん第4ステップを終了させ最後の第5ステップに入りそこでガラス固化A,Bの2系列について再確認し、試験を実施していきたい」と読みとれます。

ところで、アクティブ試験計画書（平成18年1月31日補正）P16では、第4ステップ（高レベル廃液ガラス固化建屋）中に下記3項目が行われることが条件になっております。

- ・ガラス熔融炉運転性能確認試験（ガラス固化運転が連続して実施できること）
- ・ガラス固化体取扱運転性能確認試験（ガラス固化体取扱設備の連続運転ができる）
- ・処理能力確認試験（所定の能力70L/h以上で処理できること）

また昨年7月17日の第13回核燃料サイクル安全小委員会に日本原燃が提出した参考資料4の表「アクティブ試験での試験項目、試験内容及びシーケンス」では「第4ステップでA,B両系統の性能検査を行う」と、あります。

以上のことを鑑みるに、今回の日本原燃（株）の報告にあるスケジュール変更はあまりに大きな問題です。

高レベル廃液とガラス固化についてはその想像を絶する危険性に、わたしたち周辺住民は非常に心配して見守っており、慎重にも慎重に進めることを願っております。計画がおざなりにされスケジュール優先で進められることは海洋や大気などの環境汚染を心配する私たちにとり不安が増大するばかりで決して認めるわけにはいきません。

どうか貴委員におかれましては周辺に住む人々のことを親身にお考え頂き、当初の計画を厳重に履行させ、安全を第一に慎重に進めるように審議されますことをお願い申し上げます。

敬具

補足要望

当日配布されると思われる、2月4日付け日本原燃作成の報告書「再処理施設アクティブ試験第4ステップにおける、高レベル廃液ガラス固化設備の試験状況報告」を慎重にご検討ください。処理能力が70 L/hがあるとは読みとれません。

図-7を見ると、一番下に廃液供給速度とあります。この目盛りがないので70 L/hかどうか不明なわけです。

1バッチで1体のガラス固化体が製造されます。1ページの下に「約30 m³の廃液を使用して57体(+3体が製造中)のガラス固化体を製造した」とありますので、1体につき約0.5 m³(=500 L)の高レベル廃液がガラス固化体に封入されたこととなります。

図-7で安定したグラフの11月11日12時～11月14日14時の間に5バッチすなわち5体製造されています、これはおおよそ3日と2時間ですから74時間になります。5体中に含まれる廃液は $0.5 \times 5 = 2.5 \text{ m}^3$ (=2500 L)であり廃液の供給速度は $2500/74 = 34 \text{ L/h}$ になります。

従って、図-7の廃液供給速度の目盛りはその前後ではないかと推測されます。

70 L/hの供給になるためにはグラフが倍近く跳ね上がっていないかなりませんが、そのようなところは見あたりません……。したがって70 L/hは達成できていなかったのではないのでしょうか。ご確認お願いします。